

平成26・27・28年度 埼玉県教育委員会委嘱  
「考え、話し合い、学び合う学習」推進事業

# 研究紀要



平成28年2月10日（水）

埼玉県春日部市立上沖小学校

埼玉県春日部市立大沼中学校



# あいさつ

## 春日部市教育委員会教育長 植竹 英生

平成26・27・28年度の3年間にわたり、埼玉県教育委員会「考え、話し合い、学び合う学習」推進事業の委嘱を受け、「確かな学力を身につけ、自ら学ぼうとする児童生徒の育成」をめざすため、上沖小学校及び大沼中学校において、研究に取り組んでまいりました。本日、これまでの研究の成果をまとめ、研究発表会が開催されますことに、心よりお喜び申し上げます。

上沖小学校及び大沼中学校では、「思考ツール」を手段として活用し、主体的・協働的に相互に学び合う学習における効果的な指導方法について、小中の連携を図りながら研究を進めてまいりました。このことは、本市の「かすかべっ子はぐくみプラン」を具現化するものであると確信しております。

本日、その成果の一端が児童生徒の姿を通して公開されますことは、本市の教育にとって意義深いものであります。御参会の皆様におかれましても、本研究発表会における研究実践を参考にされ、それぞれの学校における特色ある教育活動の展開に生かしていただきたいと願っております。

結びに、本研究の推進にあたり、今まで熱心な御指導と御助言をいただきました指導者の先生方に、心より感謝申し上げます。また、上沖小学校の出井宏美校長、大沼中学校の矢部勇介校長をはじめとする両校の教職員の皆様の力強く熱意ある御努力に敬意を表するとともに、今後とも一層の研究と実践をお願いして、あいさつといたします。

## 春日部市立上沖小学校長 出井 宏美

今の子供たちが、社会で活躍する頃には、厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されています。こうした変化を乗り越え、高い志や意欲を持って自立し、他者と協働しながら価値や創造に挑み、未来を切り開いていく力を身につけることが求められています。一人一人の可能性をより一層伸ばすための必要な力は、「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視して課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習、いわゆる「アクティブ・ラーニング」や、そのための指導の方法等を充実させていく必要があります。

このような中、本校では、平成26・27・28年度の3年間にわたり埼玉県教育委員会より「考え・話し合い・学び合う学習」推進事業の指定を受け、研究主題を「一人一人を確実に伸ばす授業の創造」とし、確かな学力を身につけ、自ら学ぼうとする児童の育成を図ってまいりました。一人一人の可能性をより一層伸ばすために、能動的な学習として『思考ツール』を活用し、教師と子供が共通理解しやすいよう視覚化を図り、自分の考えを自分の目で確認するよう授業の工夫改善に努めてまいりました。さらに、自分の意見を友達に伝え、友達の考えを理解していく、教師と子供が同じゴールを目指して共有化を図った授業実践にも進めていきました。そして、その具体的な効果の看取り（評価）をどう検証すべきか追及しているところです。

本日の公開授業や研究発表を通して、御参会の皆様から忌憚のない御意見御指導を賜りたいと存じます。

結びに、これまで本研究を推進にあたり、丁寧な御指導をいただきました文教大学教育学部教育課程研究室准教授中本敬子先生をはじめ、渾身丁寧な御指導を賜りました指導者の皆様、関係者の皆様に心より感謝申し上げ、あいさつといたします。

## 春日部市立大沼中学校長 矢部 勇介

平成24年度から中学校で全面实施された学習指導要領は、子供たちの「生きる力」をはぐくむという理念のもと、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること、道徳や体育などの充実により豊かな心や健やかな体を育成することです。そのためには、言語活動を充実させ、体験的な学習や課題解決的な学習を展開し、生徒一人一人に応じた指導を充実させるなど指導方法の工夫改善を進めるとともに、生徒の学習意欲の向上を図ることが重視されています。

このような中、本校は、平成26・27・28年度に埼玉県教育委員会から「考え、話し合い、学び合う学習」推進事業の指定を受け、研究主題「確かな学力を身につけ、自ら学ぼうとする生徒の育成」サブテーマを～考え、話し合い、学び合う学習をとおして～とし、研究を進めてまいりました。その基本となるものは、確かな学力をはぐくむ教育の推進である「春日部メソッド」の実践であります。

また、本研究については、小中学校連携による「考え、話し合い、学び合う学習」を推進し、授業実践を行っていくことで、確かな学力を身につけ、自ら学ぼうとする生徒の育成に取り組んできました。

研究組織を、授業研究部、黄金サイクル・環境部、調査・統計部の3部会を組織し、教師主導の一斉授業だけでなく、生徒が相互に学び合う学習方法を取り入れる研究を続けています。授業は教師の命です。生徒たちとの信頼関係づくりの基礎です。そのためには、指導方法の工夫改善に努めることはもとより、1時間1時間の授業の充実にあります。

本日は、そうした研究成果の一端を発表させていただきます。本校の研究は、まだまだ多くの課題があります。引き続き、全教職員一丸となって研究を推進していきます。

結びに、本研究の推進に当たり、本校教職員を御指導いただきました文教大学教育学部准教授中本敬子先生、埼玉県教育委員会、東部教育事務所、春日部市教育委員会をはじめとする多くの指導者の先生方に感謝申し上げます、あいさつといたします。

# 研究の全体構想

埼玉県教育委員会委嘱「考え、話し合い、学び合う学習」推進事業

◎児童生徒が、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に相互に学び合う学習方法について、児童生徒の発達の段階、学習内容等に応じた効果的な指導方法を明らかにし、県内小・中学校への普及を図り、指導方法の工夫改善を一層推進する。

## 上沖小学校

### 研究主題

「一人一人を確実に伸ばす授業の創造」  
～確かな学力を身につけ、自ら学ぼうとする児童の育成～

### 研究の仮説

- 【仮説1】自分の考えをしっかりと持ち、課題解決に向かって意欲的に解決する場を設定すれば、自ら学習する児童が育つであろう。
- 【仮説2】自分の意見を表現し、他と比較しながら聞く話し合い活動を続けていけば、学び合う姿勢が身につくであろう。
- 【仮説3】学習を振り返り、自己評価や相互評価をする学習を積み重ねれば、確かな学力が身につくであろう。

### 研究部会

- 国語部会
- 算数部会
- 道徳部会
- 英語活動部会
- ※部会内に、授業研究部と調査環境部を併設する。

- 学習指導要領
- 埼玉県教育振興基本計画
- かすかべっ子はぐくみプラン
- 児童・生徒の実態
  - ・全国学力・学習状況調査
  - ・埼玉県学力・学習状況調査
  - ・意識調査 等

## 大沼中学校

### 研究主題

「確かな学力を身につけ、自ら学ぼうとする生徒の育成」  
～考え、話し合い、学び合う学習をとおして～

### 研究の仮説

小中学校連携による「考え、話し合い、学び合う学習」を推進し、各教科等において、生徒の実態に即した具体的目標を設定し、生徒が相互に学び合う学習方法について、発達の段階、学習内容等に応じた効果的活用方法を明らかにし、授業実践を行っていくことで、確かな学力を身につけ、自ら学ぼうとする生徒を育成することができるだろう。

## 小中連携

- 研究する  
教科・領域
- ◎国語
  - ◎算数・数学
  - 社会
  - 理科
  - ◎道徳
  - ◎英語活動
    - ・英語

### 研修部会

- 授業研究部
- 黄金サイクル・環境部
- 調査・統計部

- 話し合い活動の充実
- 思考ツールの活用
- 指導案の検討・見直し
- 効果検証





# 英語活動部会

6年

ステップチャートの活用

## Lesson6 「What time do you get up?」

### 思考ツールの活用意図

ステップチャートを用いることで、一日の生活時間を順序立てて考えやすくさせる。

**成果** 起きる時間から、寝るまでの時間に、人物やキャラクターが何をするか自由に考え、一日の生活について紹介する活動がスムーズに行われた。また、グループの友達といろいろな考えを出し合い、まとめ、練習し、分担をして、発表ができた。

**課題** 考える時間やまとめる時間が多くなると、英語活動の声に出す時間が少なくなる。



2年

Vチャートの活用

## 「計算の工夫」～計算の仕方を工夫しよう～

### 思考ツールの活用意図

Vチャートを使い、2つの考えを見比べて、共通する考えを見つけ、真ん中の部分にまとめていく。また、相違点や良さを見つけさせる。

**成果** 2つの考えを見比べることができ、共通点や相違点を児童がすぐに見つけられた。括弧の付け方や位置で計算の順序が異なることや、先に計算するとやりやすくなることも見つけられた。

**課題** 2つ以上の考えが出た場合は、YチャートやXチャートにする必要があるため、事前に反応を考え、備えておく。



## 成果と課題

### メリット

共通点・相違点など、比較が容易にでき、分かりやすい。

思考したことが文字に表れ、分かりやすい。

V・Y・Xチャートは、考える数に適應することができる。

### デメリット

書く時間と考える時間のバランスが難しい。

グループ内発表と全体発表の時間のバランスが難しい。

# 算数部会

3年

Yチャートの活用

## 「かけ算の筆算としかたを考えよう」

### 思考ツールの活用意図

Yチャートを使い、考えを見比べて、共通する考えをまとめ、さらによりよい考えを見いださせる。

**成果** 3つの考えをYチャートに分け、比較することで、考え方や式の立て方の違いが明確になり、ねらいに迫ることができた。

**課題** 3つ以上の考えが出た場合はXチャートやWチャートにする必要がある。また、子どもたちの考えを記述できるチャートカードを数種類用意し対応していく必要がある。





春日部市立大沼中学校

授業研究部

小学校での既習事項を生かし、  
①見通しのもてる授業づくり  
②学習形態を工夫した授業づくり

①つかむ・見通す

リーフレットって  
何だろう？



ポイント

課題の設定 ねらいの明確化

②個人で考える

私は…と思う



ポイント

自己との対話を重ねる

学び合い授業の流れ

ポイント

自己の考えの深化・発展



考えが深まった！

④まとめる・振り返る

ポイント

グループ学習 思考ツールの活用



みんなはどう思う？

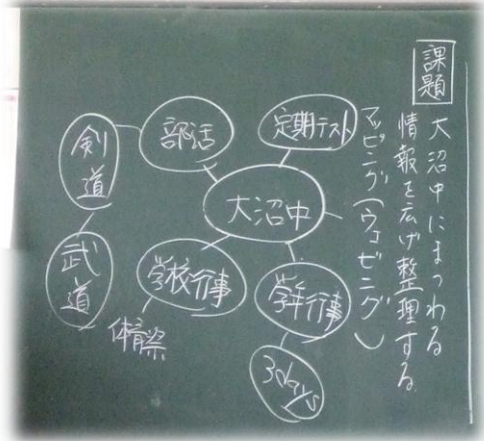
③学び合い

## ～思考ツールを使って～<ウェビング>

### 『1年国語』

#### 『小学校6年生に大沼中学校を紹介しよう』

小学校6年生に、中学校への興味や関心、入学する際に期待を膨らませるための、大沼中学校のリーフレットづくりを行った。大沼中学校に関わる情報を広げ、整理するためにウェビング法を活用した。

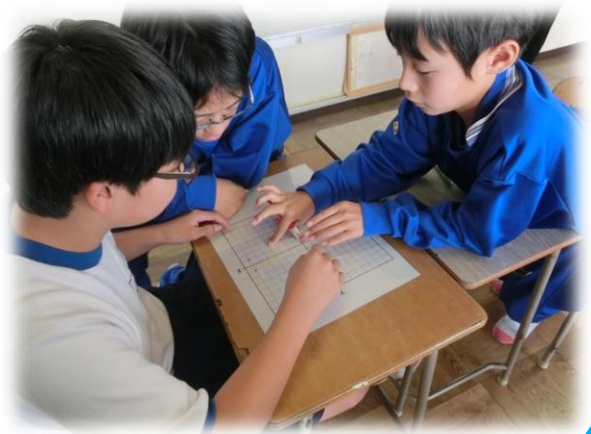


## ～ホワイトボードを使って学び合い～

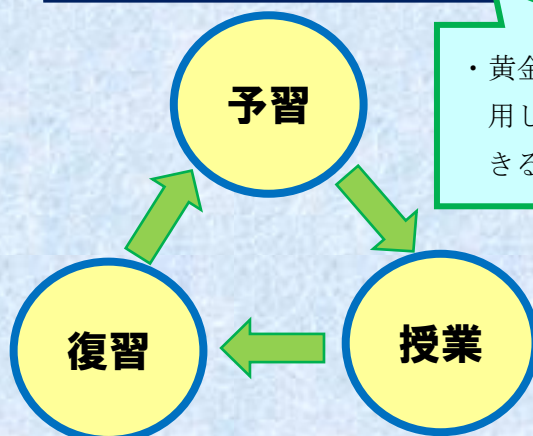
### 『1年数学 比例と反比例』

関数の領域を苦手としている生徒が多いので、小グループを用いて話し合いながらグラフを書いた。

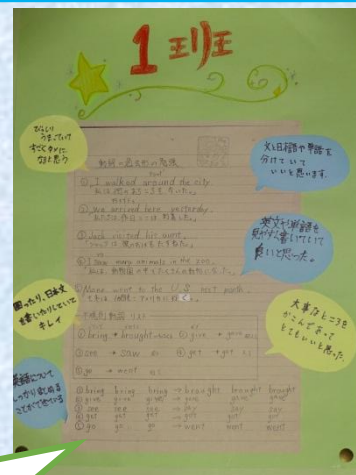
ホワイトボードを使うことで、何度も書き直しができるので、取り組みやすい。また、黒板にも掲示ができ学級で考えを共有できる。



## 黄金サイクル・環境部



・黄金サイクルノートを活用し、継続した学習ができる生徒の育成



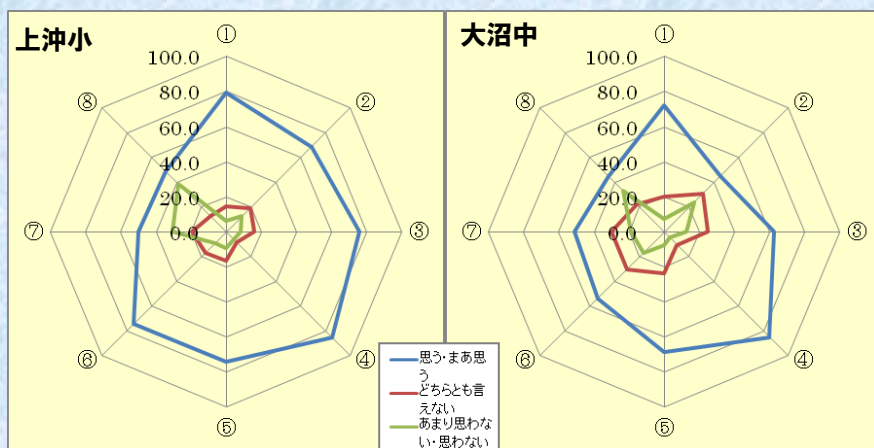
友達の家庭学習ノートを見て、工夫しているところや、まねしたいところを、みんなで指摘しました！

黄金サイクルは大沼中生徒の「学び」を支えるものである。授業だけでなく、家庭学習での「予習」や「復習」を充実、定着させることで学ぶ意欲や学力の向上を目指している。生徒は毎日家庭学習ノート（黄金サイクルノート）を担当に提出し、担任が点検をしている。



## 児童生徒の意識調査

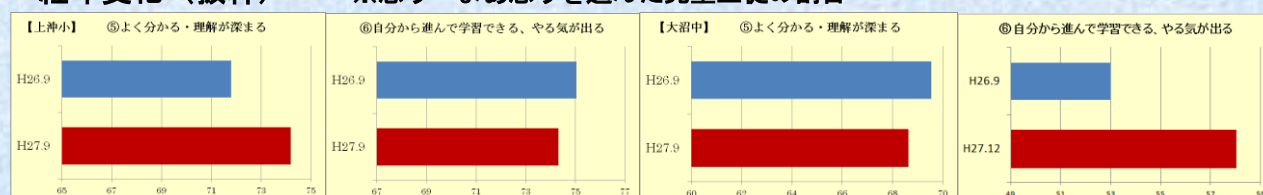
大質問 友達といっしょに考えたり、話し合ったりして学び合う授業では、どんなことを感じていますか。



〈小質問項目〉

- ① 友達の考えを聞くことが楽しい
- ② 自分の考えを話すことが楽しい
- ③ 「学び合う学習」をすると、友達と仲良くなれる
- ④ 自分では考えつかない考えを友達から知ることができるので勉強になる
- ⑤ (先生の話聞くだけより) よく分かる・理解が深まる
- ⑥ 自分から進んで学習できる、やる気が出る
- ⑦ 意見が出なくて困る
- ⑧ 間違えたり、笑われたりしないか心配で、自分の意見を出しにくい

～経年変化(抜粋)～ ※思う・まあ思うを選んだ児童生徒の割合



- ・「①友達の考えを聞くことが楽しい」や「④自分では考えつかない考えを友達から知ることができるので勉強になる」と感じている児童生徒の割合が高い。
- ・「考え、話し合い、学び合う学習」について、肯定的な回答をする児童生徒の割合は、中学校よりも小学校の方が多い。
- ・小学校より中学校の方が、学習意欲の向上を実感した児童生徒の増加割合が大きい。

## 成果と課題

### (1) 成果

- ・思考ツールを使った授業に、昨年の話型を使った交流活動が活かされ、授業の活性化が見られた。
- ・業前や家庭学習の充実が図れ、基礎基本を身につけている児童が増えた。
- ・思考ツールによって、言葉だけで伝えることが難しいことを可視化することができ、新たな気づきに繋がられるようになった。
- ・思考ツールを活用することで、学習内容が整理されて、ねらいに迫る話し合いがされるようになった。また、徐々に話し合い活動に慣れてくるようになり、グループ内で自然と進行役を決めて積極的に話し合いを進めるなど、学習活動が充実したものとなった。
- ・学び合いの授業を行うことで、学習に意欲的に取り組む生徒が増えてきた。また、学び合いを通して表現する力が育ってきた。

### (2) 課題

- ・学習過程の中で、どの教科のどの場面でどの思考ツールが有効かを試行しながら検証し、実践を積んでいく必要がある。また、それらの成功例や失敗例を全教員で共有していく必要がある。
- ・学力向上に繋がる思考ツールの活用になっているかを検証していくこと。
- ・発達段階を踏まえ、グループだけにこだわらず、違った形での学び合いの方法(思考ツールや形態の工夫)を教員が研修していく必要がある。